

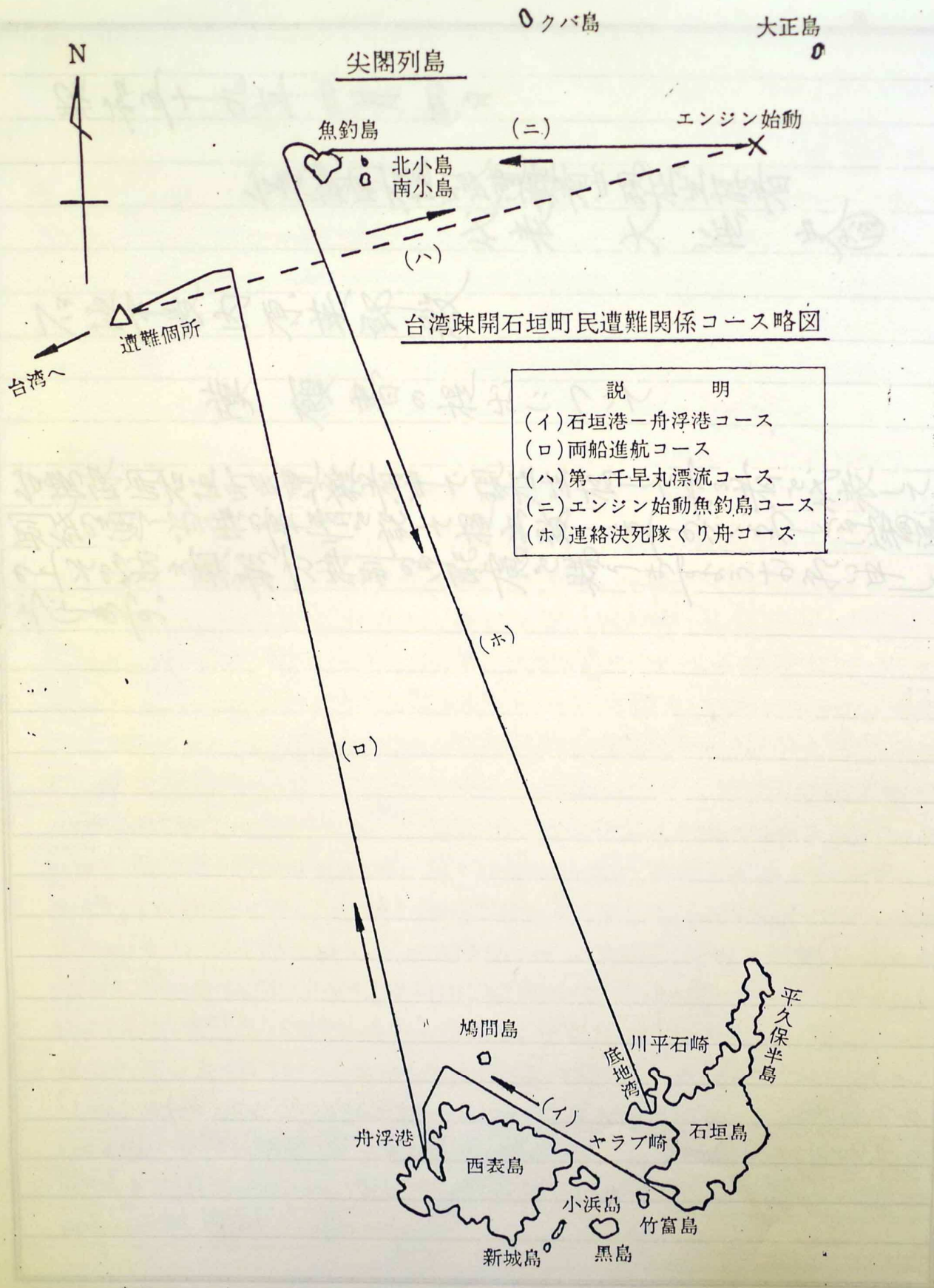
年成之月十七日

安國列馬遺雜者

國係管料繳

物新

79



台湾疎開石垣町民遭難関係コース略図

説 明	
(イ)	石垣港—舟浮港コース
(ロ)	両船進航コース
(ハ)	第一千早丸漂流コース
(ニ)	エンジン始動魚釣島コース
(ホ)	連絡決死隊くり舟コース

昭和十九年四月四日

臺灣疎開恒垣町及避難者中現在生存者
代表 大佐 中 (印)

不坦市長内原英銀殿

嘆 願書の提出に付て

臺灣疎開恒垣町及避難者中不現在生存者之代表者として
別紙の通り平時の事情を説き之提出致し奉り之を以て臺灣疎
開の上其の助之願望を賜ふ事を以て申
上申せ奉ります。

嘆願書

私達は

沖繩戦も終つてついでにわが軍艦隊も六月三日軍命により台湾へ
最後の疎開者として帰郷を出發せしめた疎開船は第一号早丸と
第二号早丸の二隻でその人員は百廿名でその船は婦女子供を少数を
とて、当時の海軍はわが危険な状況下にあつたので必ず安着する
ことを神佛に念し、安全は必ず西義船隊を經由して七月二日出発した
七月三日午後二時頃遠くの爆音と共に機銃を察見敵機が四つ物と
いふ襲撃をかけた。その時の状況は筆舌に云現すには出来ず、阿鼻叫喚
地獄は正にその時である。この(資料)が琉球海軍史編纂委員手記 昭和
首大佐史の九死一生と得て 昭和五十二年長城堂長城堂長城堂長城堂長城堂
昭和五十二年早丸は沈没多し、命が失われ、
その直夜沈没して三三隻獲物を流して、漂流九死一生を得て、支那列島、
到着致した。その後、釣島で悲惨な生活が始まりました。食糧は底をつき
餓死。二、三日もたつた。その時の状況からして、今静かに考へて見ます。私達
が今日在るのは(一)敵の襲撃を受け、(二)漂流五早丸の救助を命じられ、(三)早丸
の悲惨な状況、(四)釣島に看る(五)早丸(六)連絡用の舟を造る
三、四隻の道に、(七)各々が、(八)環境の中にあつた材料を馬の身事完成した。
(三)連絡船が沈没、(四)早丸の沈没、(五)早丸の沈没、(六)早丸の沈没、(七)早丸の沈没、
その使命を達成した。その三、四隻は、(八)早丸の沈没、(九)早丸の沈没、
あす、その三、四隻の早丸の沈没、(十)早丸の沈没、(十一)早丸の沈没、
迎える。命の大恩である。七名の早丸に感謝状を記念品として、(十二)早丸
への私達の精進の思ひ、(十三)早丸の沈没、(十四)早丸の沈没、
あげ、(十五)早丸の沈没、(十六)早丸の沈没、(十七)早丸の沈没、
二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、
二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、
署名を提出致します。この感謝状を、(十八)早丸の沈没、(十九)早丸の沈没、
あす、(二十)早丸の沈没、(二十一)早丸の沈没、(二十二)早丸の沈没、

照二十七年七月三日臺灣鐵路復通時及遷雜者現在法原者姓名

姓 名 氏 所 生年 月 日 檢印

石垣市

大正二年三月

石垣市

明治四十二年正月

石垣市

子明治三十九年

石垣市

明治三十九年正月

〃

昭和十三年正月

〃

昭和十七年正月

〃

昭和十七年正月

石垣市

明治三十九年正月

〃

昭和十二年十月

石垣市

昭和七年十月

石垣市

大正二年正月

石垣市

昭和七年正月

石垣市

大正九年正月

石垣市

昭和三年正月

石垣市

明治三十九年正月

〃

昭和十年正月

〃

〃 三年六月

石垣市

昭和八年十月

昭和九年四月四日

富野川代官長壽禧様

舟田孫次郎



沼田市長内原英郎殿

米國列島遭難者救済社個人表彰採択申分に付右顧

今次太平洋戦争におき当在垣内(富野川)總官陳陳等と云々苦難の道
を無事越えて参りましたが由に大過なく我々の疎南者も帰還する事か
出来ましたと由に承知のとおりであります。

と云ふ服和千守千月千日軍命に於る最後の台湾陳用船の第三卓丸
第五卓丸の隻は米國列島魚釣島附近に於りて敵機の数撃に遭ひ遭
難死せる者を出し、懸命の救助之行に附辛くして魚釣島に辿り、たれ
の目かたつに死に食糧はたに乏しく死せる者が続出す。状況の中であつ
百三十名の疎南者の生命を守り爲自らの苦難をかそり出す敢然と立ちあ
がた七名の勇士の沈着沉着静かな行動と之の使命を完了したか之れは事實
かあります。稀達世戦争の、いの中、事實と之の裏に於て、此の苦難を
克服してきた尊い美談と功績を顕彰するに、茲に敢然と云ひ、嫌ひ
手加を蒙り、一権を重んずる。唯の道たる考之の事實を調査して
別紙の個人表彰調書を作成致し、付上り申す。此の事實は市史にも
終戦三十九年と、この永二年月が経過して、いまが之の事實は市史にも
永く残し置くべきの由を料承ります。又、この二種有二審議の上之の
筋の上申願彰を御取計に戴きます。此は幸甚に存じます。
と云ふ字野川代官長壽禧副官長並に、新川自治公民館長、重野署
也と云ふを申し上ります。

(1) 沈没した第五号早丸の機長金城珍吉氏。沈没後冷静且速やかに
二つ行動が第一号早丸の機長の悟醒殿功と同様に陳用曹避難者を
魚釣島に救出したと。

(2) 救出の方法は連絡用。舟を造る以外に、船空本由雄長が決定に基き、船空本由雄長が環境の
中にあつた材料と毒の瓶文工士の全投量と体力の統一限り、船空本由雄長が舟を揮
その事、陳用曹難者を救出できたこと(昭和八年五月十日死去)

(3) 舟は出来た生か死か運を天にまかせて連絡を果す以外に救出の道は
なと信じた決死隊金城珍吉氏、警野川威長氏、伊礼良精氏
上原龜太郎氏、伊礼正徳氏(昭和七年八月五日死去)、美里勇吉氏(昭和
三年五月十日死去)等決死隊の(系記北田因結と宗高は精神との
実践が自事効を奏し百言名の舟一人命を救助出来たと。

それか三六号の長六号月如遇ぎその間に連絡決死隊の人々の中に又
生還した人々の中に他男亦た人々は多い人命救助と言ふ舟、埋れられた
功績は生存者も當時の事を證したから、望みもあつて近年まで事情が
よわかつたが金環者同族金環三十五号早丸に連なるにや。即ち
昭和四年(一九一九年)八月記念如感謝状を贈呈して(船空本由雄長が)
また昭和四年(一九一九年)十月には石垣市長はこの事實を調査し感謝状
と記念品を由つてその功績を顕彰して(船空本由雄長が)二つと一部に知り
たようにした

また郷土研究家牧野清氏は昭和六年三月南方同胞援護
會機長談「香洲神護」機長談列島に失陷列島小史を寄稿しその中
で台湾陳用曹石垣町民避難事件始末記として掲載したことが中央で
反響をよびたのである

以上遭難の概略と経過と申し述べて参りましたがその当時の
生々しい記録は資料として収集されておらず、船空本由雄長がと
し中巻の二つ挿入下を挿入し申して置きます

記

一個人表彰として戴きたる者之姓名

氏名	生年月日	本籍	現住所	職業	功績之由
金城 珍吉	大正元年七月五日	岡山府岡山市	岡山府岡山市	船大工	昭和三十二年八月八日、敵機襲撃に際し、船中にて奮戦し、敵機を撃墜した事により、功績を挙げた。
木由 雄	明治三十二年二月八日	岡山府岡山市	岡山府岡山市	船大工	昭和三十二年八月八日、敵機襲撃に際し、船中にて奮戦し、敵機を撃墜した事により、功績を挙げた。
祭野川 誠長	昭和三十二年二月八日	岡山府岡山市	岡山府岡山市	漁業	昭和三十二年八月八日、敵機襲撃に際し、船中にて奮戦し、敵機を撃墜した事により、功績を挙げた。
伊礼 長措	昭和三十二年三月六日	岡山府岡山市	岡山府岡山市	漁業	昭和三十二年八月八日、敵機襲撃に際し、船中にて奮戦し、敵機を撃墜した事により、功績を挙げた。
上原 龜太郎	大正三十二年九月五日	岡山府岡山市	岡山府岡山市	漁業	昭和三十二年八月八日、敵機襲撃に際し、船中にて奮戦し、敵機を撃墜した事により、功績を挙げた。
伊礼 正徳	昭和三十二年八月十五日	岡山府岡山市	岡山府岡山市	漁業	昭和三十二年八月八日、敵機襲撃に際し、船中にて奮戦し、敵機を撃墜した事により、功績を挙げた。
美里 勇吉	昭和三十二年十月五日	岡山府岡山市	岡山府岡山市	漁業	昭和三十二年八月八日、敵機襲撃に際し、船中にて奮戦し、敵機を撃墜した事により、功績を挙げた。

二推せん。理由

昭和二十一年（西五年）六月三十日油纒戦は、七に終つた。その日、本島、同日午後九時頃石垣港では軍命による宮湾への最後の疎開船が二隻他、軍関係者の船が一隻出帆した。疎開者はほとんど婦女と子供ばかりで、以て数人の男は不足せしめ、一隻は二隻で八人であった。

疎開業務は昭和十九年七月七日の緊急密議の決定による政府の命令によるもので、八重山郡では石垣町だけ自身九月頃から台湾疎開が始まった。

疎開総人員は明らかで、推定一千増帯約三千人に達したのと思われ、こゝでは敵機の目を避けるべく安全なコゝで今迄成功したコゝであった。

と、七月三日午後二時頃、尖閣列島、釣島附近で敵機の銃撃を受け、一隻は遂に火を奔り、沈没し、一隻は幸うして魚釣島にたどり、たか

結局海での遭難死者は陸上の餓による死者を含めて男二十名、女十九名の計五十一に達した。

このように疎開者遭難事件は五十名の首、犠牲を出したが、残る百三十名の尊い命を餓死寸前に救出し、生還し、尊き得た過程には波のようた

事実があった事を忘れてはならないと思ふてあります。

遺族 妻花

遺族 妻花

(資料)

(1) 遭難記 (5) 石垣町大川宮良当智 (文) 中環史 10 津鐵道記録 2 各論編 9 至 pp130-133

(2) 遭難記 (6) 石垣町字新川金城珍吉 (文) 公 右 pp133 至 pp136

その他五、方は遭難記之津繩景史に掲載され、事

石垣市字登野城 石垣之子 (四十三大) 屋部兼久 (十七大)

宮古平良町 宮古平良町 下地博 (五小) 羽地政男 (四十大)

(3) 九死一生を得ず (宮古平良町遭難事件始末記) 大橋史 (當時石垣市市長) 編纂 (前) 戦時戦後復元録 巻二 第 13 頁 至 pp 133

(4) 宮古平良町遭難事件始末記 (五三二頁)

前石垣市助後郷史郷家牧野清 南方同胞援救會機関誌 巻二 第 2 号 至 pp 98

(5) 米國列島の力一々、アホ鳥の近々 (一九三三年七月三十一日発行)

著者 宮崎 遭難者 (人) 宮良幸 郎 (本名 幸宏) 東京都文京区音羽 1-2-2 東洋印刷株式會社 發行

感謝狀

金城玲言殿

あなたは昭和二十年尖閣列島魚

釣島で遭難の際自らの生命を賭

て小舟をあやどり石垣島の旅団に連

絡られよって多数の人命が救助された

ことは松達生還者並びに家族一同が

常に感謝してゐるところであります

生還二十五周年を迎えるに当り記念

品を贈呈して感謝の意を表します

一九六九年八月十九日

無人島生還者一同

感謝状

金城珍吉殿

あなたは去る大戦の昭和三年七月

当時石垣町民が軍命により台湾へ

集田疎開の途中敵機の銃撃によつて

遭難し尖閣群島魚釣島に漂着したとき

石垣島の旅団連絡のため急造の小舟に乗り

生命を賭してその使命を達成しついに

多数の命を死の中から救助する事が出来た

このことは貴下の献身的な御努力と

御功績によるものでありまことに感謝に

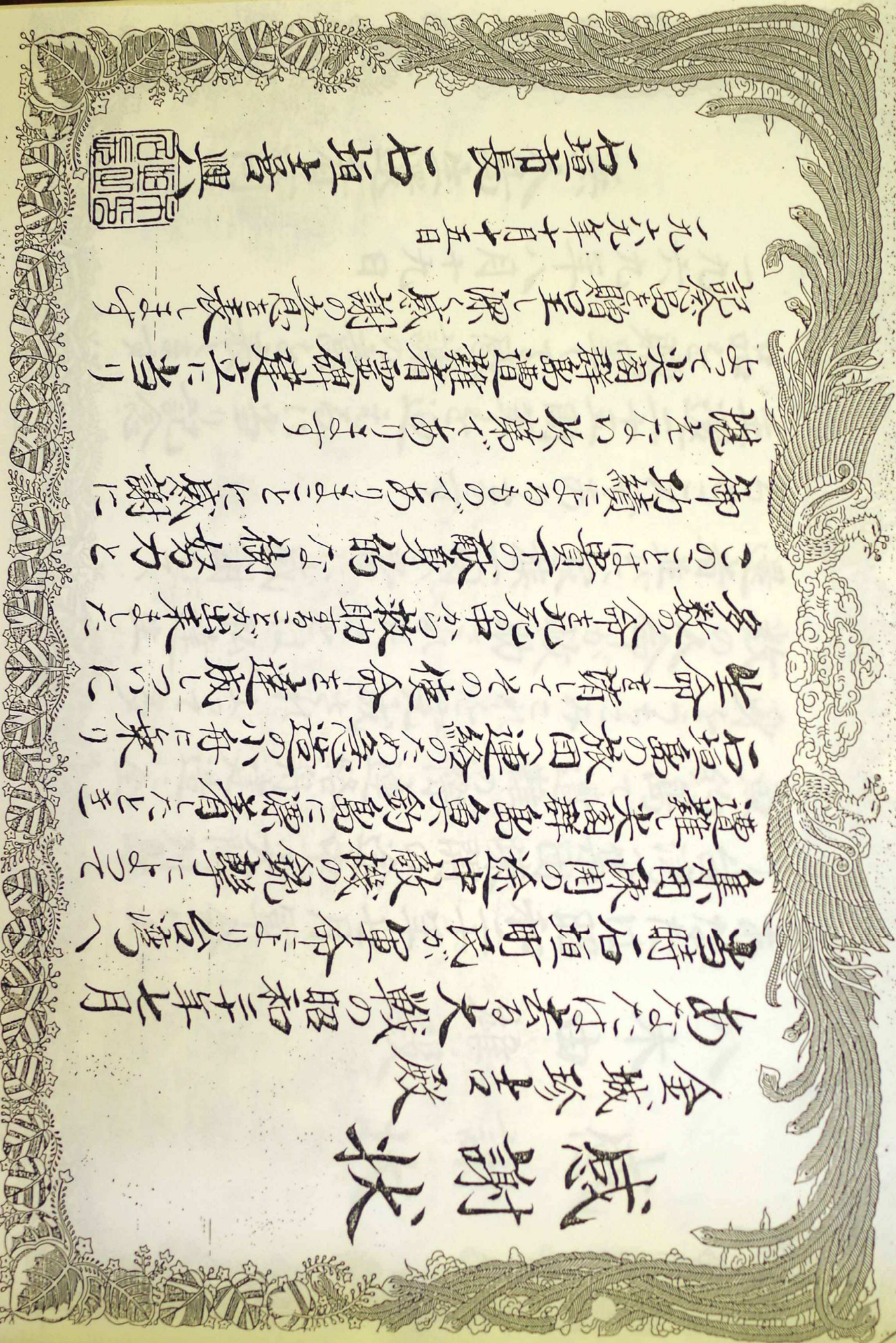
堪えない次第であります

とて尖閣群島遭難者霊碑建立に当り

記念品贈呈し深く感謝の意を表します

一九六九年十月十五日

石垣市長 石垣喜喜興



八木由雄殿 感謝状

あなたは昭和二十年七月軍命によ
り台湾(集田疎開)の途中天閣列島
魚釣島で遭難の際連絡舟建造に全
身をうちこみこれを完成されよって多
数の人命が救助されたことは私達生
還者並びに家族一同が常に感謝して
るところであります

生還二十五周年を迎えるに当り記念
品を贈呈して感謝の意を表します

一九六九年八月十九日

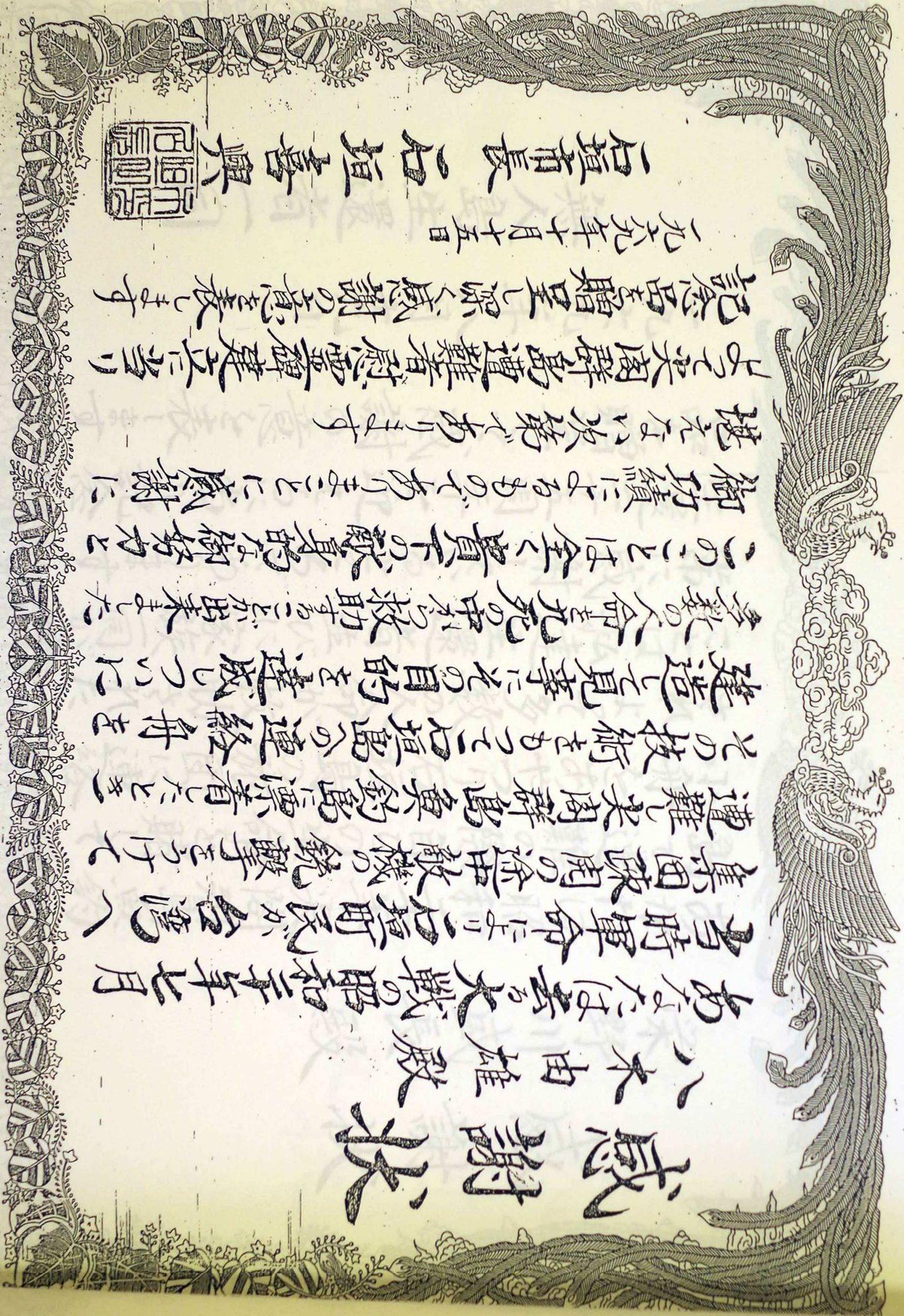
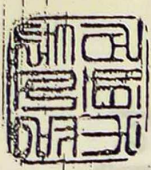
無人島生還者一同

八木由雄殿
感謝状

あなたは今の大戦の昭和三年七月
当時軍命により石垣町民が台湾へ
集団疎開の途に敵機の銃撃をうけて
遭難し尖閣群島真釣島に漂着したとき
その技術をもって石垣島と連絡舟を
建造して見事にその目的を達成しついに
多数の命を死の中へ救助することが出来ました
このことは全く貴下の献身的な御努力と
御功績によるものでありまことに感謝に
堪えない次第であります
とて尖閣群島遭難者慰霊碑建立に当り
記念品を贈呈し深く感謝の意を表します

一九六九年十月十五日

石垣市長 石垣喜興



感謝状

宋野川盛長殿

あなたは昭和二十年尖閣列島釣
島で遭難の際自らの生命を賭して

小舟をあやがり石垣島の旅団に連絡

されよて多数の人命が救助された

ことは私達生還者並に家族一同が

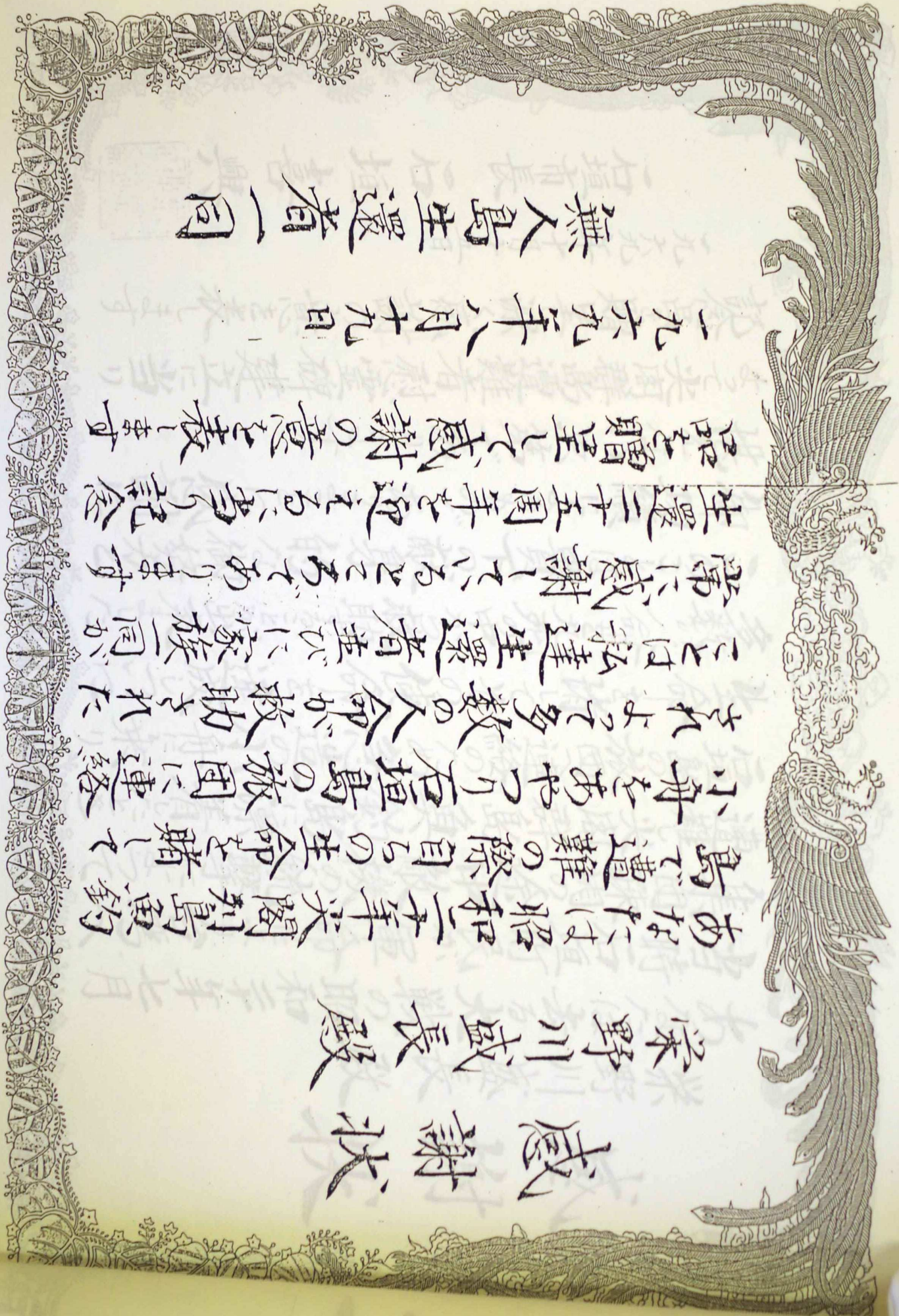
常に感謝してゐるところでありませ

生還二十五周年を迎へるに当り記念

品を贈呈して感謝の意を表しませ

一九六九年八月十九日

無人島生還者一同



感謝状

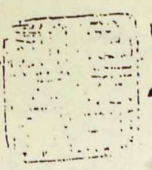
柴野川盛長 殿

おなほは去る大戦の昭和三年七月
当時石垣町民が軍命により台湾へ
集団疎開の途中敵機の銃撃によつて
遭難し尖閣群島真釣島に漂着したとき
石垣島の旅団連絡のため急造の小舟に乗り
生命を賭してその使命を達成しに
多難命危死の中が救助するに出来た
このことは實下の敵身的名御努力と
御功績によるものでありまことに感謝に
堪えない次第であります

よて尖閣群島遭難者慰霊碑建立に当り
記念品贈呈深く感謝の意を表します

一九六九年十月十五日

石垣市長 石垣喜興



感謝状

上原亀太郎殿

あなたに昭和二十二年大関列島魚釣
島で遭難の際自らの生命を賭して
小舟をあやうり石垣島の旅団に連絡
されよって多数の人命が救助された
ことは私達生還者並に家族一同が
常に感謝してゐるところであります
生還二十五周年を迎えるに当り記念
品を贈呈して感謝の意を表します

一九六九年八月十九日

無人島生還者一同

伊礼良精殿
感謝状

あなたは去る大戦の昭和三年七月

当時石垣町民が軍命により台湾へ

集団疎開の途中敵機の銃撃により

遭難し尖閣群島釣島に漂着したとき

石垣島旅団連絡のため差遣の小舟に乗り

生命を賭してその使命を達成しついに

多数の命を死の中から救助するに出来ました

このことは貴下の献身的な御努力と

御功績によるものでありまことに感謝に

堪えない次第であります

よて尖閣群島遭難者慰霊碑建立に当り

記念品を贈呈し深く感謝の意を表します

一九六九年十月十五日

石垣市長 石垣喜興



感謝状

上原龜太郎 殿

あなたは去る大戦の昭和十年七月

当時石垣町民が軍命により台湾へ

集団疎開の途中敵機の銃撃によりて

遭難し尖閣群島真釣島に漂着したとき

石垣島の旅団連絡のため急造の小舟に乗り

生命を賭してその使命を達成ついに

多数の人命を丸死の中より救助することが出来た

このことは貴下の献身的な御努力と

御功績によるものでありまことに感謝に

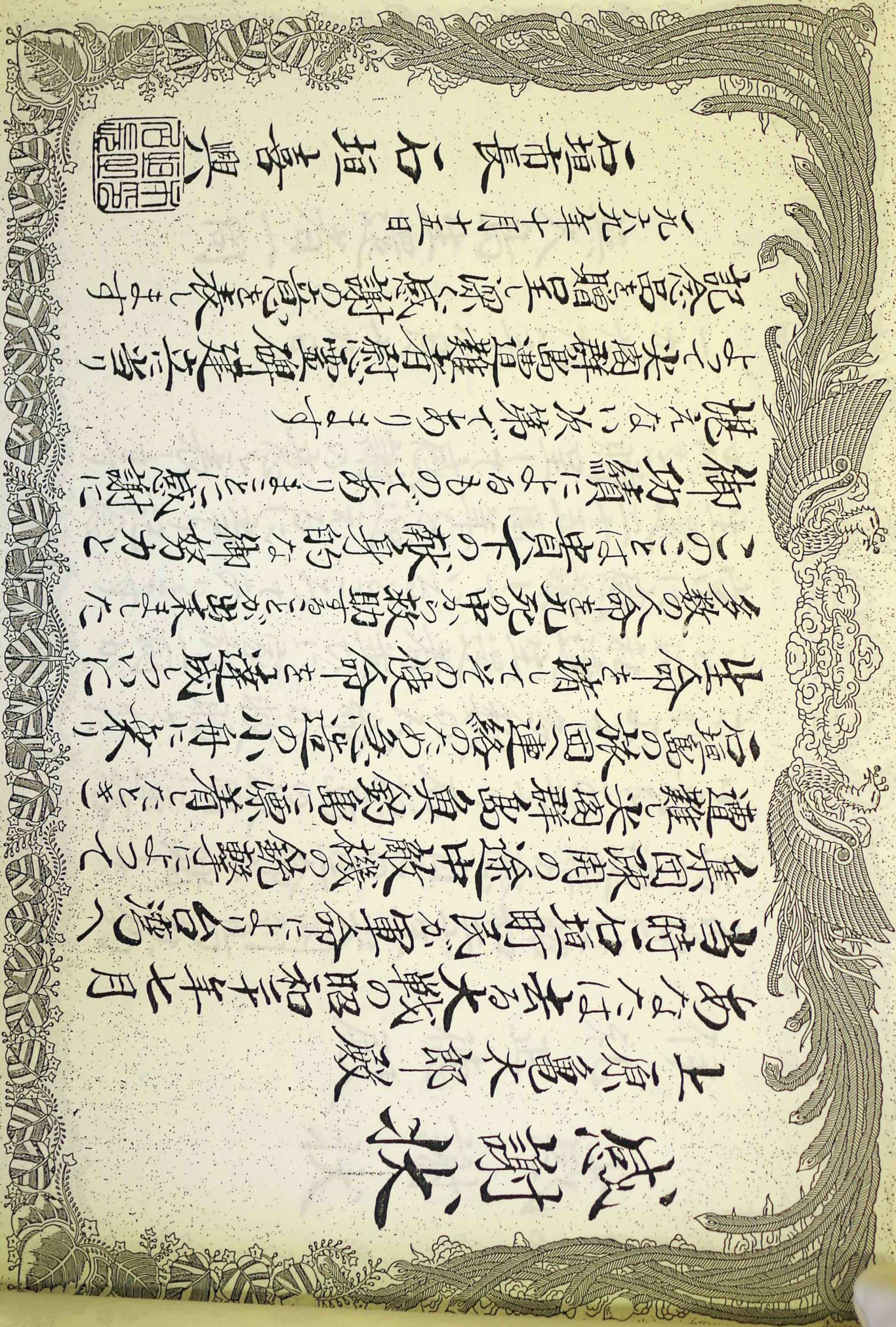
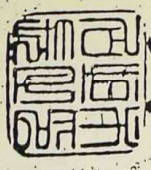
堪えない次第であります

よて尖閣群島遭難者慰霊碑建立に当り

記念品を贈呈し深く感謝の意を表します

一九六九年十月十五日

石垣市長 石垣喜興



伊礼正徳殿
感謝状

あなたは昭和二十年米閩列島釣
鳥で遭難の際自らの生命を賭し、
小舟をあやうし石垣島の旅団に連絡
されよて多数の人命が救助された
ことは私達生還者並びに家族一同が
常に感謝してゐるとしてありませ
う。生還二十五周年を迎えるに当り記念
品を贈呈して感謝の意を表します

一九六九年八月十九日

無人島生還者一同

伊礼正徳殿
感謝状

あなたは去る大戦の昭和十年七月

当時石垣町民の軍命により台湾へ

集団疎開の途中敵機の銃撃による

遭難し尖閣郡島自釣島に漂着したとき

石垣軍の旅団連絡のため急造小舟に乗り

生命を賭してその使命を達成しついに

一巻の命も死中の救助もよみがえりました

このことは貴下の献身的な御努力と

御功績によるものでありまことに感謝に

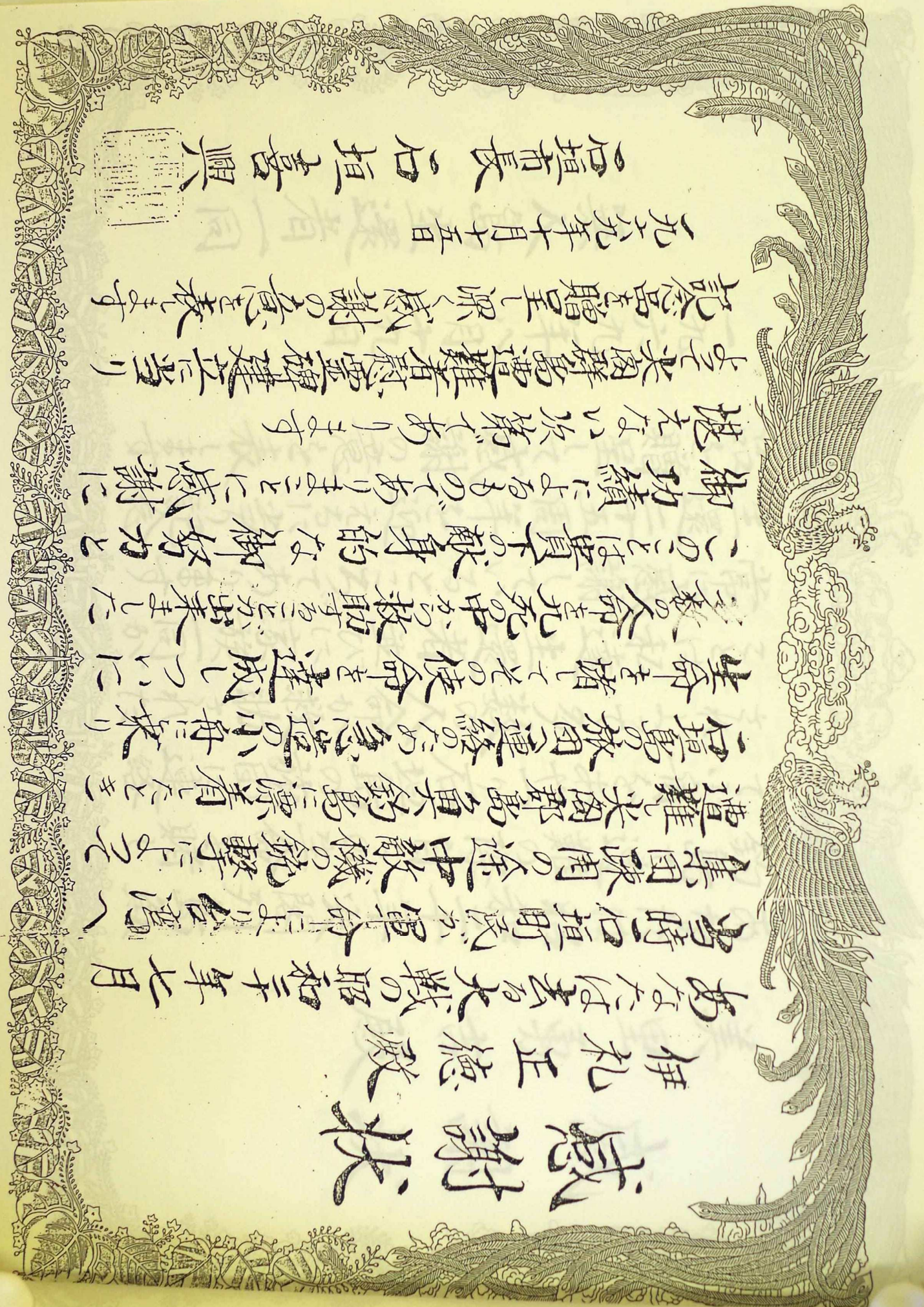
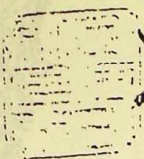
堪えない次第であります

とて尖閣群島遭難者慰霊碑建立に当り

記念品を贈呈し深く感謝の意を表します

元六九年十月十五日

石垣市長 石垣喜興



美里勇吉殿
感謝状

あなたは昭和二十年突如列島魚
釣島で遭難の際自らの生命を賭し
て小舟をもち、石垣島の旅団に連絡
されよって多数の人命が救助された
ことは私達生還者並に家族一同が
常に感謝してゐるつもりであります
生還二十五周年を迎えるに当り記念
品を贈呈して感謝の意を表します

一九六九年八月十九日

無人島生還者一同

美里勇士殿
感謝状

あなたは去る大戦の昭和三年七月

当時石垣町民が軍命により台湾

集束団疎開の途中敵機の銃撃によ

遭難尖閣群島真釣島に漂着した

巨艦島旅団連絡のため急造の小舟に乗り

生命を賭してその使命を達成すに

多数の人命を九死中から救助すことが出来

たこのことは貴下の献身的な御努力と

御功績によるものでありまことに感謝に

堪えない次第であります

よに尖閣群島遭難者慰霊碑建立に当り

記念品を贈呈し深く感謝の意を表します

元六年十月五日

石垣市長 石垣喜興

